2．朝比奈　一郎氏（青山社中株式会社　筆頭代表 CEO）

「北九州市はいろいろなポテンシャルをもった、『稼げるまち』。それを生かして、いろいろな環境が整備された、安心安全に暮らせるまちに。」

朝比奈　一郎（あさひな　いちろう）
埼玉県出身。北九州市アドバイザー。
東京大学法学部卒業。ハーバード大行政大学院修了（修士）。通商産業（経済産業省）入庁。「プロジェクト K（新しい霞ヶ関を創る若手の会）」初代代表。同省退職。2010 年に青山社中株式会社を設立。政策支援・シンクタンク、コンサルティング業務、教育・リーダー育成を行う。NPO 法人地域から国を変える会理事長、一般社団法人日本と世界をつなぐ会代表理事。

「環境問題を克服した実績を未来に。」

北九州市には公害を克服してきた歴史があります。アジア諸国や新興国など、今後成長していく国に対し、先輩として良いメッセージを出すことができると思います。環境の問題を最先端の技術やインフラ、市民の協力等、ハード面とソフト面を連携させ乗り越えてきた歴史は誇るべきものです世界に対して打ち出していいのではないでしょうか。

アピールの仕方としては「自治体外交」と「ステイト・バイ・ステイトアプローチ」があると思います。かつて、経済産業省に在籍した際に、インドのタミルナドゥ州とやり取りをし、覚書を結んだことがありました。国と都市、という格にとらわれずに、フィリピンでもベトナムでも太平洋の島しょ国でも、個々の都市が主体で外交を行い PR すれば、ビジネスにつながる可能性などがあります。

例えば中国では二級都市などでも多くが外交部を持っていますし、北九州市にも外交部局があってもよいのではないでしょうか。

「稼げるまちであるアピールを。」

国に余裕がなくなってきている中、どの地域も自立・自活して食べ・稼いでいかなければいけないと思います。「お金を稼ぐ」を前面に押し出すことに抵抗があるかもしれませんが、今の世情を冷静に俯瞰したとき、経済の重要性は益々高まっています。食べていける・稼げるまちであることを押し出していくべきです。

他市を凌駕する環境克服・インフラ整備の積み重ねがある北九州市は、インフラ輸出のポテンシャルが高いです。環境破壊の負の歴史が強くありながら、それを克服したというイメージも合わせ、他市よりも稼ぐポテンシャルがあると考えています。

インフラ輸出の金額など、実際の事業における KPI を設定し、達成し続けていくことが大切です。また、外部への PR も重要ですが、やはり、市民に理解してもらうことが大事です。ゴミ処理・下水等、どの分野であっても、インフラをどのように輸出し、感謝され、地球温暖化にどれだけ寄与したのかというのを市内向けに PR していかなくてはいけません。

インフラ以外にも、地政学的なポテンシャルの高さがあります。アジアに近く、九州のゲートウェイでもあり、港も空港もあります。交通の要衝としても経済活性化が図れるのでない

でしょうか。

「新たな分野へ」

新しい機軸という意味では、国防・防衛などに絡めて産業を発展させていくことも考えられると思います。

政治的な問題はありますが、今後のアジアの安全保障環境が厳しくなることを考えると、潜水艦の製造等、防衛産業にもポテンシャルがあると思っています。現実問題世界情勢をみても、そういった視点も必要ではないでしょうか。北九州がまさに日本を守る、というような、様々な防衛産業が発達する都市になれば良いと思います。

北九州にはスペースワールドの過去などから宇宙のイメージがある他、先述のとおりアジアが近く、海・空港もあります。そういった意味でも防衛産業が発達するポテンシャルがあると思います。

「産学連携でスタートアップに注力を」

稼げるまちを目指していくためのアプローチとしては、スタートアップの集積も一つの切り口です。とはいえ日本からメガベンチャーはあまり育っていっていません。ただスタートアップが盛んな都市はあり、面白いこともやっています。そうした都市に負けないよう新機軸、すなわち産学連携に力を入れて、世界に羽ばたくメガベンチャー育成に努める必要があると思っています。

「『環境』のまちを目指して」

環境にも様々あります。住環境や自然環境、生活環境、企業にとっての環境、平和に暮らせるよう、戦争が起こらないための環境、子育て環境など、いろいろな「環境」が整備されて、未来に向けて安心安全に暮らせるようなまちになれば良いのではないでしょうか。